

中期経営計画

(2020年3月期～2022年3月期)

2019年5月7日

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

目次

1. 2019年3月期の総括

2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）

- (1) 中期経営方針
- (2) 中期経営目標
- (3) 2020年3月期の業績予想
- (4) 中期事業計画
- (5) 中期開発計画



2019年3月期の総括

【売上高】

(単位：百万円)	18/3期 実績	19/3期 計画 (1月開示)	19/3期 実績
ジェイス	1,078	948	1,031
ジャック	309	409	372
再生医療 製品事業	1,387	1,358	1,404
再生医療 受託事業	785	862	835
研究開発 支援事業	98	123	118
売上高合計	2,271	2,343	2,357

【特記事項】

自家培養表皮ジェイスの売上高は、1,031百万円（対前期△4.4%、対計画+8.8%）。対前期の減少要因は、母斑向けが、販売開始直後で待機患者需要が集中した前年に比べ減少したことによる。

自家培養軟骨ジャックの売上高は、372百万円（対前期+20.5%、対計画△9.0%）。対前期の増加要因は、中期的臨床データの訴求や富士フイルムグループTVCMの効果など。

受託事業の売上高は、835百万円（対前期+6.4%、対計画△3.1%）。対前期の増加要因は、これまで受託した案件の進捗に伴う収入と、新規案件の獲得。

研究開発支援事業（ラボサイト）の売上高は、118百万円（対前期+19.9%、対計画△3.7%）。対前期の増加要因は、国内外の化粧品・化学品メーカー等に向けた積極的な営業活動の効果。

営業利益は、△349百万円（対前期△561百万円、対計画+66百万円）。自家CAR-T細胞治療の導入一時金等により1Qは赤字となったが、2～4Q累計では91百万円の黒字を維持。

【業績】

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2018年3月期（実績）	2,271	211	213	227
2019年3月期（業績予想、2019年1月発表）	2,343	△415	△405	△413
2019年3月期（実績）	2,357	△349	△339	△333

目次

1. 2019年3月期の総括
2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）
 - (1) 中期経営方針
 - (2) 中期経営目標
 - (3) 2020年3月期の業績予想
 - (4) 中期事業計画
 - (5) 中期開発計画



(1) 中期経営方針

【基本方針】 再生医療のさらなる普及に向けた、新製品の開発 ならびに生産技術革新・販売力強化を推進する

(1) 新規再生医療等製品の開発

- ① 対象領域としては、既存の皮膚・軟骨領域に加え、角膜・がん領域を目指す。
特に二次性変形性膝関節症など従来にない大規模な市場を狙い、飛躍的な事業拡大をはかる。
- ② これまで再生医療等製品の開発・適応拡大を実現してきた経験・ノウハウを生かし、
既に治験を開始している製品および今後治験開始を予定している製品の開発を着実に進める。

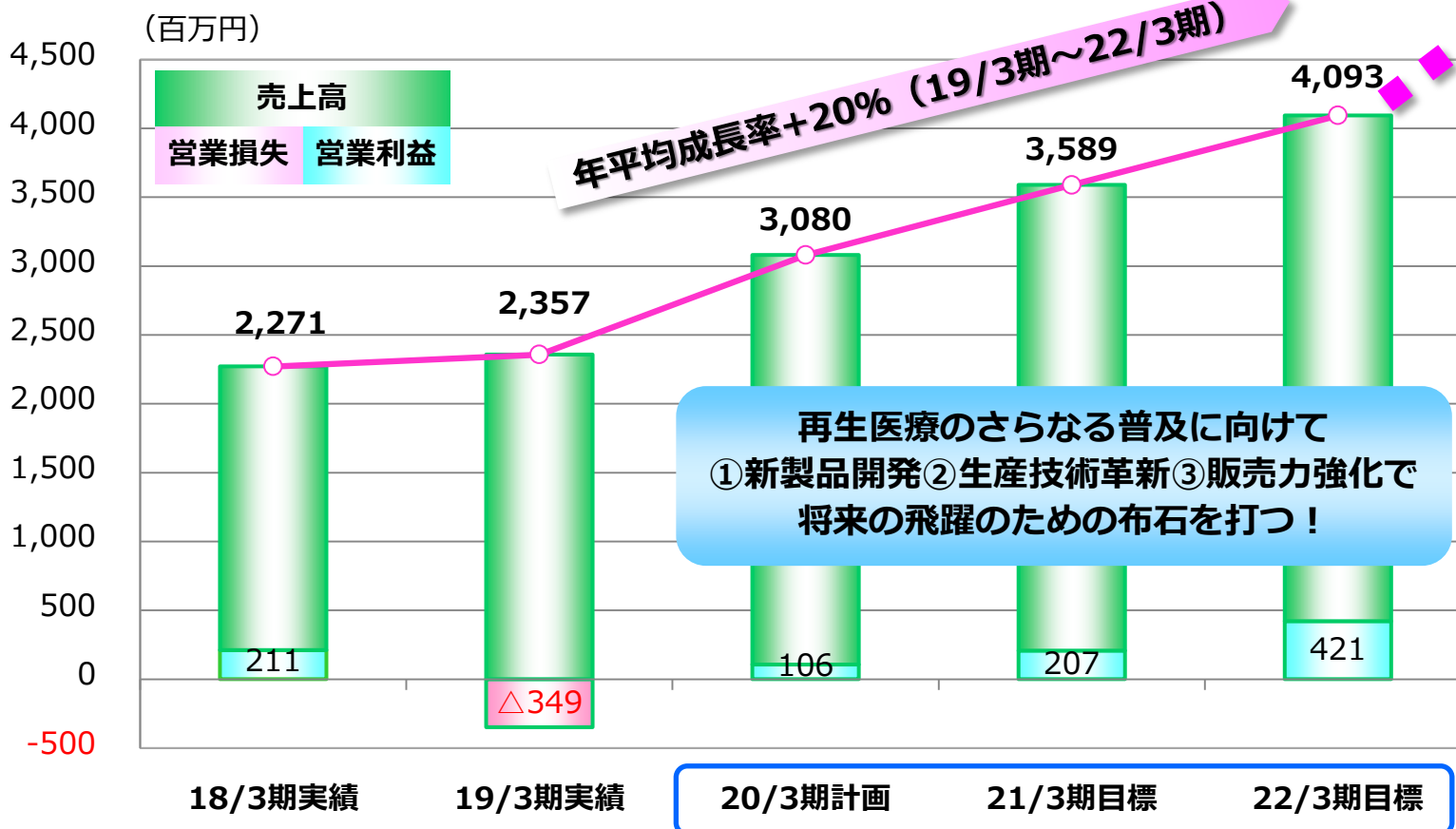
(2) より多くの需要に備えた生産技術開発・販売力強化

- ① 自家細胞製品の大量受注・安定供給実現のため、これまで蓄積してきた培養技術と富士フィルムのエンジニアリング技術を融合し、革新的な生産技術・生産体制を確立する。
- ② 販売数量の増加に効率的に対応できる、再生医療の営業戦略・営業手法を確立するとともに、
当該製品がより適切に使用されるよう情報の収集・提供の仕組みを再整備する。

(3) 既存事業の伸長による安定した利益の創出

- ① 自家培養表皮ジェイスは、表皮水疱症で売上を伸ばす。自家培養軟骨ジャックは、コラーゲン膜による低侵襲化・移植手技の簡便化を徹底的に訴求し、症例数の増加につなげる。
- ② 受託事業は、これまで獲得した案件を成功に導くとともに、これら実績を礎にさらなる良質な新規案件を獲得する。加えて、当該事業モデルの一般化・標準化を目指す。
- ③ ラボサイトは、OECDテストガイドライン化の訴求と海外展開により売上増をはかる。

(2) 中期経営目標



(単位：百万円)	売上高	対前期成長率	営業利益	営業利益率	経常利益	当期純利益
2019年3月期 (実績)	2,357	3.8%	△349	-	△339	△333
2020年3月期 (計画)	3,080	30.6%	106	3.4%	112	86
2021年3月期 (目標)	3,589	16.5%	207	5.8%	214	181
2022年3月期 (目標)	4,093	14.1%	421	10.3%	428	364

(3) 2020年3月期の業績予想

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2019年3月期 実績	2020年3月期 計画	対前期	
			増減額	増減率
ジェイス	1,031	1,206	175	17.0%
ジャック	372	615	243	65.3%
再生医療製品事業	1,404	1,822	418	29.8%
再生医療受託事業	835	1,101	265	31.8%
(ラボサイト) 研究開発支援事業	118	156	37	32.0%
売上高	2,357	3,080	722	30.6%
営業利益	△349	106	455	-
経常利益	△339	112	452	-
当期純利益	△333	86	419	-

- ❖ 売上高は、ジェイス表皮水疱症、ジャック、受託事業、ラボサイトの売上拡大により、対前年増加を見込む。
- ❖ 営業利益、経常利益および当期純利益についても、売上拡大に伴い対前年増加、および黒字化を見込む。

(4) 中期事業計画

① 再生医療製品事業

- ❖ 自家培養表皮ジェイスは、熱傷は使用枚数制限の緩和（40→50枚）の訴求、母斑は新規患者への普及により売上を維持。表皮水疱症で上積みを図る（年平均成長率※+8%）。
- ❖ 自家培養軟骨ジャックは、コラーゲン膜による低侵襲化・移植手技の簡便化の訴求に加え、施設基準緩和や富士フィルム診断機器との協業を追求する（年平均成長率+36%）。
- ❖ 自社開発パイプライン（中期開発計画参照）に加え、富士フィルムとの協業による新製品開発・販売を推進する。

② 再生医療受託事業

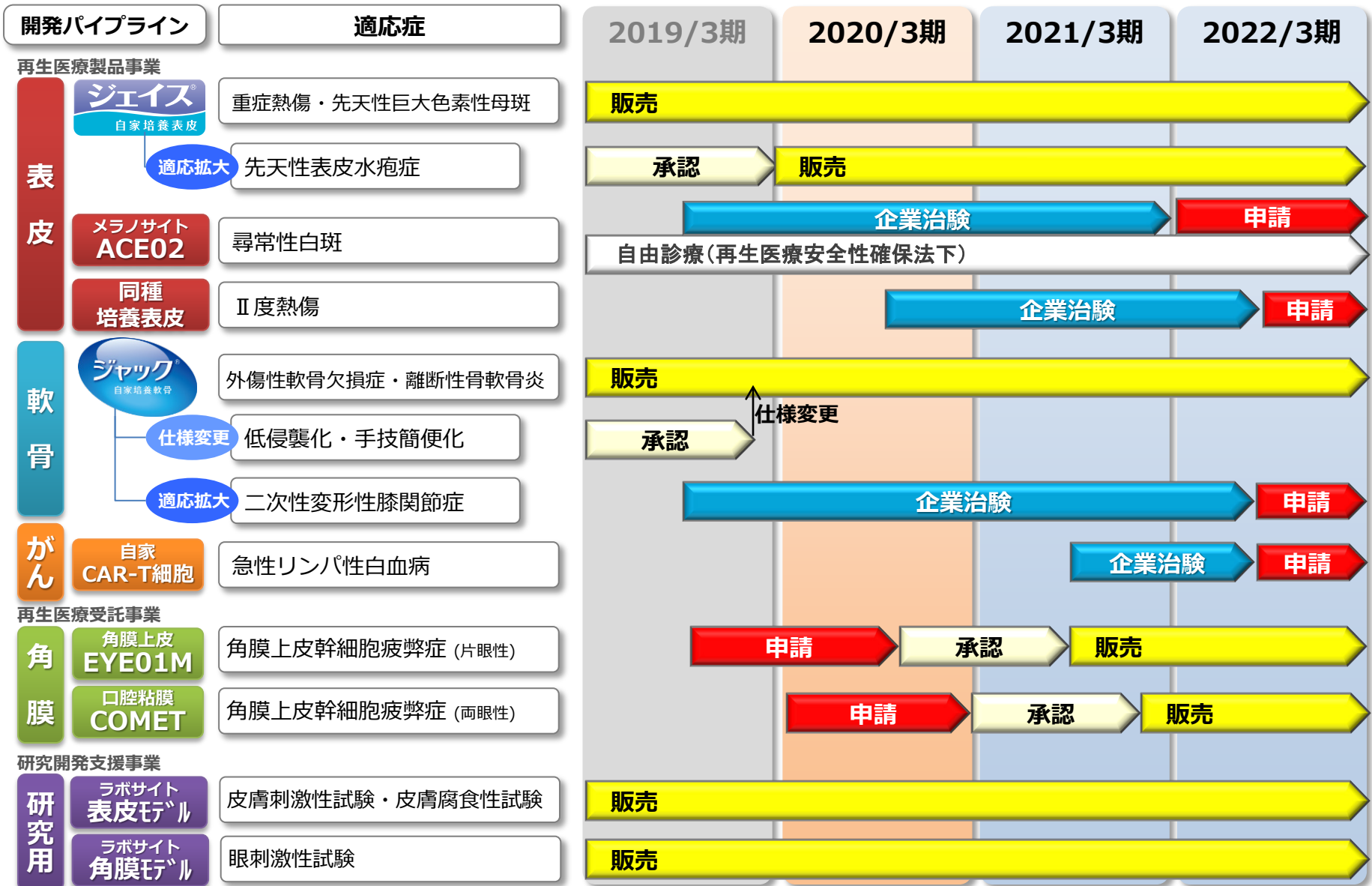
- ❖ 受託事業は、既存案件の確実な収益の獲得、蓄積した知見・経験を生かしたさらなる良質な新規案件の受注、および眼科領域製品の製造受託開始等により、事業を拡大する（年平均成長率+17%）。

③ 研究開発支援事業

- ❖ ラボサイトは、角膜モデルの眼刺激性試験、およびエピ・モデル24の皮膚腐食性試験のOECDテストガイドライン収載を梃子に、売上増を図る（年平均成長率+17%）。
- ❖ アジア圏への拡販に加え、富士フィルムのネットワークを活用した海外展開を検討する。

※年平均成長率は、2019年3月期～2022年3月期の4年間で計算。

(5) 中期開発計画



本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

経営管理本部

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: jtec-info@jpte.co.jp